

本年度の重点目標

- 豊かな心と主体性をもち、未来を切り拓いていく生徒の育成
 - ・ 授業が分かる生徒 90%以上
 - ・ 時間を決めて家庭学習に取り組む生徒 80%以上
 - ・ 学習課題を意識し、よく考えて学習に取り組む生徒 85%以上
 - ・ 自分から進んで挨拶や返事をする生徒 90%以上
 - ・ 主体的に生徒会活動等に取り組む生徒 90%以上
 - ・ 相手の気持ちを考えて協力する生徒 95%以上

前年度

前年度末評価（全校生徒の自己評価）

- ・ 授業が分かる生徒 88%
- ・ 家庭学習課題を確実に提出する生徒 74%
- ・ 授業での説明や意見等をしっかり聞く生徒 95%
- ・ はっきりと挨拶や返事をする生徒 94%
- ・ 主体的に生徒会活動等に取り組む生徒 86%
- ・ 相手の気持ちを考えて協力する生徒 93%

前年度末評価では「授業での説明や意見等をしっかり聞く生徒」「はっきりと挨拶や返事ができる」「相手の気持ちを考えて協力する生徒」の3項目は数値目標に達した。しかし、「家庭学習課題を確実に提出する生徒」の項目は、目標値に届かなかった。そこで、今年度は家庭での課題の取組の確実な定着を図るために、「時間を決めて家庭学習に取り組む」という項目に変更し、基本的な生活習慣との関連を図ることとした。また、「よく考えて」「自ら進んで」等の生徒の意欲や主体性を重視した取り組みを重点目標とし、教師が生徒の様々な取組を認め励ますことで、成就感を味わえるようにした。

行動Ⅰ

・学習意欲の向上

- ① 基礎学力の確かな定着を図り、分かる授業を展開する。
- ② 授業の終末が家庭学習につながり、家庭学習が次時の授業につながるように、家庭学習課題を工夫し、時間を決めて学習するよう指導する。
- ③ 学習課題を意識させ、人の説明や意見等をしっかり聞いて考えさせる活動を工夫する。

・学校生活の向上

- ① 自ら進んで挨拶や返事ができるよう、一人一人への言葉かけを大切にし、生徒と教師の信頼関係を深める。
- ② 主体的に生徒会活動等に取り組ませるため、生徒の活動を認め励まし、成就感を味わえるようにする。
- ③ 学校生活の中で、集団活動に目標をもって取り組ませ、思いやりの心で協力する機会を多くつくる。

中間評価

中間評価 … 教職員、生徒、保護者対象

- ・ 学校評価から、該当する評価項目を選び、それぞれのアクションについて自己評価を実施する。
- ・ 評価結果をHP等で掲載するとともに、学校評議委員に報告し意見を求める。

- ・ 職員会議等で調査結果を検討し、今後の取組について共通理解を図る。

行動Ⅱ

・学習意欲の向上

- ①は継続
- ②③ 適切な課題を与え、その課題を解決していく授業展開となるよう授業改善に努める。

・学校生活の向上

- ①②は継続
- ③ 発表や話し合いの機会を工夫し、互いに認め合い、励まし合う人間関係づくりに努める。

年度末評価

年度末評価 … 教職員、生徒、保護者対象

- ・ 授業が分かる生徒 90%以上
- ・ 時間を決めて家庭学習に取り組んでいる生徒 80%以上
- ・ 学習課題を意識し、よく考えて学習に取り組む生徒 85%以上
- ・ 自分から進んで挨拶や返事をする生徒 90%以上
- ・ 主体的に生徒会活動等に取り組む生徒 90%以上
- ・ 相手の気持ちを考えて協力する生徒 95%以上

- 評価結果をHP等で掲載するとともに、学校評議員に報告し意見を求める。

次年度

- ・ 職員会議等で、1年間で達成されたことと今後の課題について共通理解を図る。

学校評議員等の意見も参考にしながら、学習の習慣化が学ぶ意欲の向上につながったか、共に生活の向上を目指して挨拶や清掃、集団活動を実践することが、生徒の学校への愛着、社会性の育成につながったかについて検証し、次年度の行動計画を作成する。